

# 2022年 ウォータールー大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

## 1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

先生が説明した後にグループで話し合いと発表をするという流れが多かった

20人程度のクラスで対話を用いた授業が多かったです。

授業の形態としては教員が一方向的に話を進めるということではなく、生徒間でのディスカッションやペアワークが非常に多く、発言する機会が多かったことから積極的に授業に参加できました。

班で会話をし、自分の意見を発言したり、プレゼンをしたり、ノートを書くことよりも、意見を聞いて、自分の意見も発言するので、授業がすごく早く感じました。

2時間半の授業が毎日2コマありました。合計で4種類の授業があり文法やリスニング、スピーキングなど外大のIESに似たものを感じました。授業は非常に楽しく良かったです。

全ての授業において必ずディスカッションをする場面があり、自分の意見を出すことや話し合うことが多かった。授業で体を動かすことや外へ出ることもあった。そして大きな課題は授業の初めにどのような内容かを教えられ、その内容についてかんがえる時間があつた。

午前1コマ、午後1コマの授業形態。パソコン必須の授業で、プレゼンなど生徒間で資料を共有して進める授業が多かった。ゲームなどを取り入れた授業が多い。講義もあるが、グループワークや指名など一つの授業で何度も発言できる機会がある。

Cultural Studies, Integrated Skills, Speaking & Listening, Presentation Skills の4教科がありました。Integrated Skills は文法や essay の書き方の授業な為、グループワークはあまりありませんでした。しかし、その他3つの教科はグループワーク、ディスカッションが多くて楽しかったです。まず質問や問題に対し5-6人のグループで話し合い、その後グループの代表が発表するというかんじでした。

グループワークが多かったです。

4,5人ほどのグループごとに向かい合って座っているので、授業中はこまめに意見交換をしていた。

授業には、プレゼンテーション能力を測るものやその国特有の文化を知るものなど様々あり、先生が生徒に問いかけをするスタイルだった。一方通行の授業スタイルではなく、全員が参加する授業だった。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

クラスの人数 20人 日本人13人 他国7人(アンドラ、韓国、メキシコなど)

日本人 13人、韓国、メキシコ、アンドラ、パナマ、コロンビア、さからの学生1人ずつの19人。

クラスの人数は20名程度で半数以上を外大と東工大の生徒が占めていたことから日本人が多かったです。留学生の出身国としては韓国、アンドラ、メキシコ、コロンビア、エクアドル、パナマ、サウジアラビアの生徒がいました。

クラス人数は20人で、日本人13人、海外からの留学生7人でした。韓国、エクアドル、パナマ、メキシコ、コロンビア、アンドラなどからきている留学生たちと授業をしました。

半分ほどが外国人、現地のボランティアの学生も授業に参加してくれる。アンドラ、サウジアラビア、韓国、日本、エクアドル、コロンビア、メキシコ、パナマ。

クラスの人数は19人であった。そのうち13人が日本人であった。そのほかの国はアンドラ、韓国、コロンビア、サウジアラビア、パナマ、メキシコであつた。

た。この 19 人に加えて中国とエクアドルの寮生がボランティアでクラスに参加していた。

クラス 20 人程度で日本人は半数を占めていた。メキシコ、韓国、アンドラ、パナマ、サウジアラビア、エクアドルなど出身の留学生がいた。

外大(11 人)、東京工業大学(2 人)、アンドラ、韓国、メキシコ、サウジアラビア、パナマ、コロンビア(一人ずつ)

クラスは少人数でしたがほとんどが日本人でした。日本人以外のクラスメイトの出身国は韓国、アンドラ、メキシコ、コロンビア、パナマ等でした。

クラスは20人ほど。日本、韓国、コロンビア、メキシコ、アンドラなど

クラスの人数は、20 人くらいだった。そのうちの7人くらいが留学生で、日本人が 13 人くらいで比率的にはコロナの関係もあるのか留学生が少なく感じた。留学生の出身国は、メキシコ、カンボジア、韓国、パナマ、エクアドル、コロンビア、アンドラというように様々だった。

#### クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

小さいグループに分かれて話し合いをすることが多かった

日本の学生より、海外からの学生のほうが発言などを積極的に行っていました。

常に教員と生徒の会話のキャッチボールが行われていたと思います。生徒が暇することなく、楽しい題材ばかりだったので、積極的に授業に参加できました。

皆が積極的に発言をするので、恥ずかしがらずに、発言をして授業に参加しやすい雰囲気でした。そして、みんながやさしく、分からないことがあればすぐに教えてくれて助け合いながら授業を受けるので、すごく居心地がよかったです。

やはり授業の発言がカギになってくると思った。他の国の学生は日本の学生と違ってとても積極적だった。

どのような時であっても生徒が意見や質問をしやすい環境であり、先生が話している途中に質問などを行うことができるような環境であった。休憩の時間にはみんなを外に出で会話をしたりしていた。

生徒が発言することで授業が進行していく。生徒がリーダーとなり授業を進めていくことも多かった。英語を書くことよりも話す機会がとても多い。グループワークなどでは自分から進んで発言しないと、日本人同士のように雰囲気だけで意思疎通はできないので、コミュニケーションを積極的に取ることを常に意識しなければいけない。

Renison Collage には、私たち English For Success プログラムの他にも、様々なプログラムに所属している学生がたくさんいましたが、私たち EFS のクラスが一番仲良かったです。授業外の朝、昼、夜の食事の際にも、一緒に食べ、日本人同士で固まることなく色々な人とペアやグループになって勉強しました。私たち母親世代にあたる、年代が違う生徒が二人いましたが、その方達ともお昼ご飯を一緒に食べたり、休憩時間に話したりしました。

少人数なため全員と話す機会があり気楽に授業を受けることができました。

非常に賑やかで、わからないことがあるとすぐに質問する人が多い

クラスの雰囲気はとても良く、誰でも発言しやすい雰囲気だった。特に、グループディスカッションが多く一人一人意見を求められる場面が多かった。

日本の授業と違って、クラス全体で授業を作り上げるという感覚だった。

#### 授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

ポスターカンファレンスと自分でお題を決めてディスカッションをする課題

カナダのレクリエーションについてのトピックが印象に残りました。

カナダの自然についてです。カナダは自然がすごく豊かであり、野生で生息している動物の種類も豊富だからです。

プレゼンです。自分の国の紹介をしたり、グループで紙飛行機を作って紙飛行機の様子を記録して紹介したり、ペアワークで、自分たちで作ったお題をみんな賛成か賛成じゃないかを聞き、そのことの原因などを話し合っ授業をしたのが、とても楽しいし、それぞれの意見を聞けて、とても心に残りました。

特に印象に残っている授業はプレゼンの授業で、どのリーダー性がいいのかの話合いから始まりそして実際にプレゼン、とても構成がしっかりしていて興味深かった。

Cultural Studies という授業の中で二人一組になりカナダのことについて調べ、ポスターを作り発表するという課題があった。その課題の中で私はカナダの動物について調べたが、ほかのグループでは食文化や都市、スポーツなど様々なジャンルについて知ることができたのでとてもいい経験になったと思う。

カナダの文化について、実際に授業中に教室から出て、動物や植物を自分たちの足で探しに行くなど、身近な自然について学習した。自分の目で実際に見ることでとても印象に残った。

Cultural Studies で、カナダ、他国の文化を沢山知れたことです。例えば、留学 2 日目、ONTARIO のロゴと花の柄付きのコースターを買ったのですが、それがなんの模様なのかは当時知りませんでした。しかし、オンタリオの州花がエンレイソウだと授業で知った時、コースターの柄の意味がわかりました。また、クラスメートの一人がアンドラ出身で、アンドラの国旗の意味を教えてくださいました。国旗の両端の赤、青はフランスを、真ん中の黄色はスペインから来ていると知った時、感動しました。Cultural Studies でこれらの事を学んでから、カナダの文化、ヨーロッパの歴史を勉強したいと思うようになりました。

「エッセイの書き方の形式」「カナダの遊び、スポーツ、動物や旗について」が初めて知ることが多かったため印象に残っています。

一番初めのプレゼンテーションの授業でのトピックであった、良いリーダーとはどのようなリーダーかというトピック。

カナダの文化について。カナダ特有のものをグループで教室外に見つけに行くというもの。例えば、グース、メープルの葉、リスなど。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

授業後にわからなかったことは調べるようにしていた

できるだけ積極的に発言などをし、授業を前のめりで受けようと努力しました。

ミスを恐れず自ら積極的に発言することを心掛けていました。理由は積極的に発言することによって得られる学びも深くなると考えていたからです。

相手に伝えようとする意識、積極的に意見を発言し、難しくわからなくても、わからないまま置いとくのではなく、すぐに留学生の友達や先生に聞くことを意識しました。」

なるべく発言すること。やはり受け身になってしまう授業がおもしろくなるから。面白くするのは自分次第

課題の内容がしっかりと理解できなかった時やあいまいな時は、すぐ先生に質問をして明確にするようにした。日本人が多いため、他国の生徒がいるグループに混ぜるようにして英語をより多く使えるような環境づくりをするようにし、積極手に気英語を使うよう努力した。

積極的に発言すること。また分からないことがあれば、すぐに教師に質問することを意識した。

授業中はとにかく積極的になること、課題の際には完璧のクオリティを目指しました。日本人生徒の中には消極的な人もいましたが、その方達の目は気にせず、他国の生徒に劣らないようにどんどん発言しました。授業開始の週で積極的に発言を頑張ったおかげで、2 週目からは先生の方から私を当ててくれ、自分に自信がついたので自然に沢山発言することができました。Speaking 授業の essay を音読し、提出する課題の際には、少しでも発音やイントネーションがあやふやな単語は全て調べ、自分が納得いくまで録音を繰り返しました。Essay の課題では、参考文献を探す時から丁寧に調べ、私が書ける最大の質になるまで推敲しました。

理解できなかったことがあればそのままにせず先生に聞くようにしていました。

積極的に発言すること。ディスカッションで発言するタイミングを見失い、黙っていたら他の留学生がもっと発言してみようと声をかけてくれた。それ以降は、積極的に自分の意見を言うことを心がけた。

とにかく集中して先生が言っていることを聞いていた。わからないことがあれば、クラスメートや先生にその時に聞くようにしていた。英語に慣れるために普段の会話から英語で話すようにしていた。

## 2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。
0人	-
1人	日本人
2人	日本人

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
徒歩	0-15分	大学内のカフェテリア

部屋に用意してあったものは何ですか。
ベッド、机、鏡、チェスト
ベッド、机、クローゼット
クローゼット、ごみ箱、シーツ
バスタオル一枚、鏡、勉強机、棚、引き出し、クローゼット、ごみ箱
机、ベッド
ベッド、勉強机、クローゼット、収納棚が用意されていた。
ベッド、勉強机、収納棚など
衣類棚、ベッド、枕、シーツ、枕カバー、バスタオル1枚
クローゼット、鏡、棚、ブランケットと枕付きのベッド、勉強机と椅子、クーラー、バスタオル一枚
机、ベッド、衣類の収納棚。枕カバーとシーツは週に1回寮のスタッフが交換してくださった。
机、椅子、クローゼット、コンセント、ベッド、毛布、枕等

自分で用意したものは何ですか。
ハンガー
洗剤、風呂用品、歯磨きセット
ドライヤー、シャンプー、コンディショナー、ハンガー
箱ティッシュ、タオル、お風呂に行くときなどのスリッパ、ミニ裁縫道具、スキンケア類、シャンプー、リンス、ボディークリーム、洗顔、ハンガー、ドライヤー、くし、服、パジャマ、パーティの時に着ることができる明るい服、水着、袋、日本のお菓子、消毒シート
日用品、パソコン、各種充電器、常備薬を持参した。
ハンガーなど
ハンガー、ドライヤー、シャンプー、リンス、ボディークリーム、歯ブラシ、タオル
洗濯ネット、ハンガー、タオル、ドライヤー、歯ブラシ、シャンプーや洗剤、ボディークリーム等は自分で用意しました。
ハンガー、水筒、水筒を洗うスポンジ、洗濯洗剤
ハンガー、ドライヤー、枕カバー

寮生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

シャワーの水圧が弱かったこと、コンセントが壊れやすかったこと

湯船がなかったこと、トイレとシャワー室が併設されていること、夕食の時間が早いこと

シャワーの水圧が弱かったときは少し驚きました。そのほかは特になく、過ごしやすかったです。

ウォシュレットがなかったこと。

時々外食をすることがあったが、レストランでチップを渡すときに自分で計算をしなければならなかったときはどの程度のチップを払えばよいか計算するのに戸惑った。

戸惑ったこと： シャワーの圧力が弱すぎる。コンセントがときどき使えなくなる。虫が部屋に出ること。驚いたこと： 車椅子用のボタンがあること。キャンパスが広いこと。

寮生活を快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

分からないことがあったら、すぐに相談をすること

ルームメイトとお互いの生活スタイルを尊重し合い、最低限お互いが快適に過ごすことができるためのルールを作る。

何より生活に慣れることが大事だと思いました。

色々な状況に対応して、たくさん友達と会話をして、無駄な時間をすごさように、毎秒を全力で楽しむことです。

隣の部屋にいる人や食堂でよく合う人たちと最低でも挨拶をするような関係を持っておくと、とても気持ちよく一日過ごせるようになると思う。

他の国の文化を理解すること。また寮にある施設、例えば図書館や共有スペースを積極的に利用すること。他の留学生と交流できる機会になったため。

もし寮の設備に問題があったら、すぐにスタッフに言うべきだと思います。問題を伝えるのが面倒臭いと思い、我慢しては自分が損するだけだと思います。私の場合、根本的な解決には至りませんでしたが、すぐに伝えて返答が返ってきたことで自分の中のモヤモヤは解消することができたので特に不満が溜まるということはありませんでした。

シャワーや洗濯に行くためのカバンがあると便利でした。

私は寮の食事が合わなかったため、日本から持ってきたインスタントの食事をとったりしていた。それがなくなったときは、近くにあるアジアマーケットでインスタントの食事を買いに行っていた。食事面が心配の人は、カップ麺などを持っていくと良いと思った。

問題があったらすぐに相談する。

パソコンは 持参しましたか	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。
はい	ワイヤレスで可能

携帯電話は 持参しましたか	利用方法
はい	日本から SIM カードを持参

### 大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。

スーパーやカフェに行ったり、Renison 主催のイベントに参加したりした。

トロント、ナイアガラの滝、テーマパークなどの観光や、大学付近の娯楽施設に引率の方が連れて行ってくださりました。

基本的には毎日イベントがあったのでイベントに参加しました。平日は課題が多く出される日もあったので課題に追われる日もありました。土日はイベントを欠席して、私自身で旅程を組んで野球観戦やショッピングに行ったりもしました。

寮主催のアクティビティ、留学生とみんなでカフェに行ったり、みんなでトランプゲームをしたり、みんなでバレーボールをしたり、常に寮の友達たちと過ごしていました。

毎日たくさんのイベントが用意されていて、それに全部参加すればかなり楽しいと思う。

毎日授業後に必ずイベントがあり、そこには授業を一緒に受けている生徒以外の他国の寮生がいたため、より多くの国際交流をする場面があった。休日には観光地やアクティビティなどへ行く機会が設けられており、そこでクラスの人たちとより多く交流する機会があった。

大学が主催しているイベントが毎日あったため、ほとんど毎日参加していた。カナダの伝統的な食事を実際に作ることができるイベントや、他のクラスの留学生と交流することができる寮内のイベントが多かったので、積極的に参加していた。観光地に行くことができるイベントも毎週末に開催されていた。

寮のアクティビティが、平日の夜、土日と毎日ありました。土日は、トロント市街地やナイアガラの滝、ラフティングやショッピングモールなど、遠いところにまでバスを出してくれ、二人の peer leader と共に観光することができました。平日は、カナダのスイーツを作ったり、バスケットボール、パーティ、カードゲームなど毎日違うアクティビティを peer leader が用意してくれました。アクティビティの料金はもうすでに寮に払っている為、参加、不参加は自由でしたが、全てのアクティビティに毎日参加しました。参加したおかげで、他国の留学生とより仲良くなることができたのでとても良い機会でした。

毎日アクティビティがあったためできる限り参加しました。授業後アクティビティまでに時間がある日はスポーツやゲームをしたりスーパーマーケットやカフェなどに行ったりもしていました。

大学主催のイベントがあるので、放課後はそれに参加していた。パドミントン、バスケットボールなどのスポーツ、カードゲーム、脱出ゲーム、カラオケなど毎日違うイベントがあったので楽しめた。

主に大学主催のイベントに参加した。他は、カフェに行ったりショッピングセンターに行ったりした。部屋で課題をする日もあった。

### 学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など

walmart、Timhortons、Starbucks

日本食レストランや学内のジムをよく利用しました。

ティムホートンによく行きました。またレストラン街に日本食をよく食べに行きました。

学内のゲームなどができる部屋で、トランプゲームをしたり、卓球をしたりしました。Timhortons のカフェによく行きました。

自然がたくさんあるから、散歩をしていた。

大学内に24時間営業しているコンビニのような店があり、そこで授業前や授業後に飲み物を買っていくことが多かった。そして、寮から10分程度歩いたところにあるレストラン街のようなところで日本食や韓国料理など数回夕食を取ることがあった。

寮から徒歩5分程度の大学内に店出しているカフェをよく利用した。また大学内にスーパーや薬局などの店が集まるエリアがあったため、そこで必需品を購入した。

大学内に Tim Hortons というカナダのカフェがあった為、授業終わりは留学生と数回行き、課題や談笑をしました。

ティムホートンはよく利用しました。また大学内等で課題をしていました。

Tim Hortons、大学内のコンビニ、薬局、スーパー

ティムホートン、ドラッグストア、コンビニ、カフェテリア



### 3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
単語の復習
英単語帳を読むことや、日常会話で使えるフレーズを本を読んで覚えしました。
日常会話の本を買いましたが序盤しか読めなかったです。
会話するときによく使う言葉を少し勉強したり、あまり治安が良くない場所を調べたりしました。
日常会話を少し勉強した。
留学では、アカデミックな英語よりも日常的に使う英語のほうが圧倒的に使うことが多いと思っていたため、海外ドラマや海外映画などを見てどのような英語が使われるのかなどを勉強した。それに伴い、リスニング力を上げるように努めた。
生活に必要なと思われる英単語を暗記した。また簡単な自己紹介をできるようにした。そして日本を紹介できるように日本の文化について調べた。
自己紹介文を考えたり、現地で使えるような日常会話の復習をしたりしました。
良く使う英文を考えたり、単語を覚えたり、リスニングを練習をしたりしていました。
オンライン英会話。英語の授業を履修していなかったため、オンライン英会話に取り組んでいた。
英語は留学先で必須になるので少しでも自身の英語能力を向上するため、英語学習に取り組んだ。

留学前にしておけばよかったと思う準備
単語をもっと覚えておけばよかったと思う
基礎的な英単語の振り返りをもう少し注意深くすればよかったと思いました。
単語数を増やしておくべきでした。知らない単語が毎日出てきました。
リアクションがとても大事であるため、リアクションに関する表現をもっと知っておけばよかったと思った。
知っている単語の量を増やすこと
ホームページの情報だけでは寮の部屋や施設に、何が有り、何が無いのかは詳しくわからなかったもので、勇気を出してメールなどで質問したら良かったと思いました。
色々な国についてもっと知っていたら他国から来た学生に出身地を聞いた際すぐに理解できると感じました。また、単語をもう少し多く覚えておくべきでした。
電車の乗り方を調べること。
留学先国に関する知識をもっと身につけておくべきだった。他には、リスニング力をより鍛えていけばよかったと思った。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
ドライヤー、胃腸薬など。
日本のお菓子・食べ物
袋やジップロック、サンダルやスリッパ、日本のお菓子やカップ麺などは喜ばれていました。
洗濯ネット
お菓子、ドライヤー、日焼け止め、洗顔、ハンガー、上着(少し厚め)、水筒、エコバッグ

#### 日本から持っていく必要のなかったもの

多額の現金。大体の支払いはクレジットカードで済む。

参考書や単語帳はあまり必要なかった。課題をする時間が多かったことや毎日イベント(参加しなくてもよい)があることで、ほとんど日本から持って行った本を触ることがなくとも重いため、あまり多く本を持って行かないほうがいいと思った。

半袖。エアコンで寮や大学内がかなり寒く、常に裏起毛付きのパーカーを着ていた。8月だったので半袖を多く持っていったが、ほとんど着る機会がなかった。

大量の日本のお菓子、日本からのお土産、参考書、電子辞書

#### 日本から持参すればよかったと思ったもの

長袖の服

インスタントの味噌汁やラーメンなどの日本食。

日本の伝統を感じられる手土産。

すぐに乾くサンダル(ビーチサンダルなど)

食堂が開いている時間が限られていたため、食品を少し持参すればよいと感じた。

・洗剤、ハンガー、テッシュ、テープ(寮にあると思っていたらありませんでした。) ・水着(使うかわからないし、必要であれば現地で買おうと思っていましたが、現地では水着売場を探すのも苦労したし、現地で買うととても高かったです。)

スーパーでも買えましたが、ハンガーとお菓子等の食べ物です。

ハンガー。部屋にハンガーがなかったので、スーパーへ買いに行った。乾燥機をかけても洗濯物が乾いていないことがあったので、ハンガーは持参すればよかったと後悔した。

簡易のリュック(小さめ)

#### 4. 留学費用について

##### お金をどのように準備しましたか。

クレジットカード、現金

現金 500\$を日本から持参し、現地での支払いはほとんどクレジットカードで行いました。

現金、デビットカードを用意しました。

現金とクレジットカード

ほとんどクレジットしか使わなかった。

クレジットカードを2種類(VISA、JCB)とプリペイドカード(MASTER)、現金を持って行った。

現金とクレジットカード

クレジットカード2枚、現金。

クレジットカードと現金を用意しました。

クレジットカードと現金を準備していたが、現金は全く使わなかった。

クレジットカード2枚と現金を準備した。



現地で支払った住居費と食費を教えてください。

クレジットカード上限不明、現金3万

現金 5 万円、クレジットカード上限 20 万円。

現金 5 万円分、デビットカード 10 万円分を用意しました。

現金2万円ほどと、クレジットカード上限25万円

15万

クレジットカード上限 10 万円、プリペイドカード 3 万円、現金 2 万円準備した。加えて日本円 1 万円用意した。

現金5万円程度

クレジットカード2枚(上限 20 万円と 30 万円を1枚ずつ)、現金 3 万円。

クレジットカード5万円、現金2万円

現金2万円とクレジットカード

クレジットカード上限20万、現金8万くらい。

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

テキストは全てパソコンにアップロード、教室は寮内にあった為テキスト代、通学費共に 0 円です。

テキストはなく、通学費はかからなかったため。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

買い物はお土産を含めて200ドルくらい、出国前の PCR 検査が140ドルくらい

お土産代や外食費に 400\$程度かかりました。

7 万円ほどかかりました。

約13万円

物は買っていないが、アクティビティなどに3万

65,000 円程度かかった。

イベントの交通費は含まれていたため、お土産代や食事代などのみ。

お土産が六万千円、自分の服が一万七千円、洗濯費用が 3 千円ほどでした。

トロント旅行でバス代が往復 38 ドル

買い物に5万円くらいで食費に 1~2万円くらい。

## 5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析
発言することの怖さがなくなった
恥ずかしがらず、自信をもって外国人と英語で会話できるようになった。
積極的にコミュニケーションを取ることができるようになりました。4 技能の観点から考えるとリスニング能力は非常に向上したと感じています。それを表すエピソードとして、初日に出会ったエクアドル人と英語を話した際に彼は普段スペイン語を話すことから、話すスピードが速く、英語を話す際もスピードが速かったのですが、彼と毎日時間を共有することで日に日に彼の話す英語を理解できるようになりました。
相手とコミュニケーションをとることができるスキルはすごく上がったと思います。
勿論、語学力は重要だがコミュカも大事。
私はこの留学においてリスニング能力が上がったと感じている。なぜなら、様々な国から留学生が来ていたためその国独自のなまりがあり、とても聞き取ることが難しかった。しかし、毎日一緒に過ごしていく中でその国の英語に慣れ始め、最終週には初日に比べると聞き取れるようになり理解することができるようになっていたためである。特に、スペイン語圏の人の英語はしゃべるのが速く「r」の発音が全く違ったため聞き取れることに苦労した。
留学成果について、カナダの文化だけでなく、寮と一緒に住んでいた方々の様々な国の文化を実際にコミュニケーションを通じて学ぶことができた。また、コミュニケーション能力について、単語が分からなくても、ジェスチャー、コミュニケーションを取ることができた。
とても短い留学期間でしたが、語学力、コミュニケーション能力は確実に上がったと思います。寮に着いた初日や次の日に、バスが隣の席になったパナマの子と喋る機会がありました。自分が言いたいことをスラスラ言えませんでした、積極的に話を広げようと頑張りました。その1週間後にその子と会い、話す機会がありました。すると、1週間前よりスラスラ喋れているのが私自身でも感じることができました。またその1週間後に同じ子に会いました。すると、その子が、「前よりも会話のテンポが速くなったし、自信がついたように見えるよ」と言ってくれました。
自主的に行動すればするほど沢山英語を使う機会を増やすことができました。そのためリスニング能力とスピーキング能力があがりました。
外国人と直接会話をするのが久しぶりだったため、最初の頃は英語を使うことに戸惑いがあったがすぐに慣れ、自分から話かけるようになった。
語学力は、留学前よりも多少上がったと感じる。なぜなら、留学全体を通して日本語を話さないようにして常に英語に触れる環境にいたので分からない単語があればすぐに調べたり、他の人に聞いたりしていた。そのため、日が経つにつれて英語が少し聞き取れるようになり、言いたいことが少しずつ言えるようになった。コミュニケーションにおいても、なんでも積極的に自分から聞くようにしたりしていた。また、プレゼンテーションで自身のコミュニケーションスキルが上がったと感じる。

留学前の目標とその達成度
英語で話すことの苦手意識が少し減った
外国人の友達を沢山作り、数多く話すことによって英語力を向上させるという目標を立てましたが、自分が立てていた目標以上に数多くの方々と話すことができました。
海外の友達を5人作るという目標を掲げていたのですが、目標を達成することができました。しかし、現地の人とあまり繋がれなかったことが後悔として残っています。
海外の人たちとたくさん会話をしたいという目標が100%達成しました。
沢山友達を作る目標をたて、それを達成できた。
留学前の目標は他国の留学生とたくさんコミュニケーションを取り、自分のコミュニケーション能力を上げることであった。留学中、他国の留学生たちとしゃべる機会がたくさんありコミュニケーションを取ることができた。しかし、自分の内気な性格が邪魔をし自分が目標にしていたコミュニケーションをとる量の8割程度しかとることができなかった。けれども、その人たちとSNSでつながることができたためそれを使いコミュニケーションをとるように努力したいと思っている。
スピーキング能力を上げることを目標にしていた。結果として、発音が良くなったかは分からないが、言い回しや実際に会話の中で多く使われるフレー

ズなどを学ぶことができたので、そのような点でスピーキングの能力が向上したと感じられた。

「3週間という短い期間だから、何事も積極的に行動する」が目標でした。同世代の外国人と話すという経験が私にはなかった為、寮に着いた初日の時、外国人が話しているところに入っていきの少し躊躇したことを覚えています。しかし、私はそこで勇気を出して話しかけてみました。初日に頑張ったおかげで、自分に自信が少し付きました。それからは、授業中や観光中でも、勇気を出して行動すると自信が付くの繰り返しで、帰国時には沢山の外国人の友達を作ることができ、外交的な自分になることができました。

全教科 80 点以上を目標としていた。達成できなかった教科もあったが、毎回課題のフィードバックがていねいだったので、モチベーションを維持できた。また、留学先で一人旅をしようと思っていたのでそれが出来た。

留学前の目標は、リスニングの向上そしてコミュニケーション能力の向上を目標にしていた。その達成度は、100%ではなかったが多少は向上したと思う。留学先では常に英語で話すようにしていた。また、他の留学生とも話すようにしていたのでリスニング、コミュニケーション能力の向上をはかるといふ目標は完全ではないが達成したと感じた。

### 留学を通しての成長ポイント

#### 積極性がついた

恥ずかしがらず、自信をもって外国人と英語で会話できるようになった。外国の方と数多く積極的に話すことにより、リスニング能力が向上したと感じました。

何事にも恐れず積極的に取り組む力がついたと感じています。この経験を活かし、残りの学生生活で資格試験などに取り組みたいと考えています。

自分にさらに自信がつき、恐れずに、積極的に行動する力が付きました。

英語の会話におけるコミュカがついたと思う。外国人はスモールトークが好きなのでそれが力ついた。

留学前より自分の意見を周りを気にせず出せるようになったと思う。なぜなら、毎回授業でディスカッションをする時間があり話し合いに参加するために自分の意見を出すことがよく合ったためである。そのため、自分の意見を出し積極的に話し合いに参加できた。

自分自身行動する力が身についたと感じられる。留学生の中でのコミュニティに入り発言することで、コミュニケーションを取る機会を得ることができたので、話しかけて積極的に英語を使用することが留学日数を重ねるごとにできるようになった。

何事も恐れずに積極的に行動する力が付きました。積極的に行動したおかげで、良い結果を得られたことが沢山ありました。授業中、分かるところがあればとにかく発言をし、授業後は先生に質問をしに行きました。Integrated Skills の先生と仲良くなることができ、卒業式ではその先生が私の顔を見て泣いてくれたことがとても嬉しかったです。留学二日目のトロントに行く最中のバスで、私は勇気を出してメキシコ人の隣に座りました。その子とは、留学期間中で一番仲良くなることができ、帰国する際にはその子と離れるのがとても辛かったです。帰国後の今でも連絡を取り合う仲になることができました。

問題解決力。自分から行動を起こさないと問題を解決することができないという状況が、力を身につけることができたきっかけだったと言える。

留学を通してまずコミュニケーション能力が身についたと感じる。他には、リスニング能力も身についたと感じる。授業では発言が求められるので自分の意見を持ちそれを伝えるということが留学前ではあまりできなかったのが今回一番成長を感じた。

## 留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

もっと自分の考えや気持ちを伝えられるようになりたいと思ったのと英語以外の語学への学習意欲も高まった

留学前は、リスニング能力の向上やコミュニケーション能力の向上といった漠然とした目標が大きかったですが、留学後は、たくさんの外国人の友達ができたとにより、英語力を更に向上させ、その人たちと更に深い話をし、親密になりたいと思うようになり、帰国後もたくさんの外国人の方と話す機会を設け、英語学習を継続して行おうと思いました。

留学前は就職活動や教育実習に行っていたことからあまり英語に触れる機会がなく自信がなかったです。しかし、いざ留学に行ってみると意外と英語が通じたので安心感を抱きました。留学後としては秋学期に外大に来る留学生が非常に増えることを耳にしたので留学生と話したいと考えています。

相手に伝わるけれど、流ちょうに話すことがまだ苦手なので、流ちょうに話せるようにもっと頑張ろうと思いました。

上がり続けることができた。

留学前は文法や語構造などに興味があったため単語を主に勉強していたが、留学中は他国の留学生と会話をする中で自分の言いたいことをできるだけ簡単な単語で表現することを意識して話すようにしていた。そのため、今では自分の伝えたいことを簡単な英語で表現できるように様々な言い回しを勉強したいと思っている。

留学前は単語を暗記することばかり意識していた。しかし留学を経て、その単語をどのような機会にどのような使い方がふさわしいのかを考え、実際に使ってみることが重要だと考えられるようになった。

試験や課題のために英語を使うという意識から、コミュニケーションのために英語を使うという意識になった。

もちろん留学前も語学学習に対するモチベーションはあったが、語学を勉強している人たち(留学生)に触れて留学中はもちろん留学後も留学前より語学学習に対するモチベーションは上がりました。

## 留学中 100%力を振り絞った瞬間

大学側の引率なしでトロントに行くとき、交通手段の手配や現地での買いもの際の店員との会話など、

一人でトロントに行った時です。バスで目的地まで行けるはずだったのですが途中の駅で乗客全員が下車させられるという経験をしました。何があったのかわからず、どうしていいかわからなかったのでバスの運転手さんやほかの乗客に質問し、何とか目的地にたどり着きました。

全ての時間を全力で取り組んでいました。

たくさん英語を話して、たくさん英語を聞いた。

800文字のGMOに関するエッセイを書いたことである。なぜなら、この課題では参考文献を5個以上必要とされ、それに加えて私はあまりGMOの知識がなかったためそのことを理解することから始まったためである。そして、800文字のエッセイを書くためには様々な表現が要求されるため自分が知っている表現方法だけでなく、授業の中で身につけた新しい表現方法も使いエッセイを書いた。

グループプレゼンを行ったとき。期限が短いなかで責任を感じながら取り組むことができた。

寝ている時以外毎日100%を出していました。授業中、プレゼン中、課題はもちろん全力を出しました。授業外でも食事やアクティビティの際に積極的に英語を話し、部屋に帰っても、会話中に言えることが出来なかったフレーズや、次の会話で使えそうなフレーズを考えるなどして頭をずっと使っていたので、就寝時には一瞬で寝付いていました。

寮からバスで2時間半ほどのトロント一人旅で、帰り道にバスが運行休止になったこと。携帯の充電も切れていたため別ルートの乗り方が全く分からなかった。色んな人に尋ね、教えてもらった代わりに電車とバスを利用し、4時間かけて無事帰ることができた。

プレゼンテーションを行う時。留学前まではプレゼンテーションを行う機会がほとんどなくて、プレゼンテーションに慣れてなかったため留学中にプレゼンをするとなった時に何回も練習をして本番に臨んだ。その時が一番力を振り絞ったと感じる。

#### 留学先大学の良かった点

イベントが沢山あり毎日充実していた また、親切な人ばかりで困ったことがあると必ず助けてくれた。

どの授業の内容も興味深く、楽しみながらも英語力を向上させようと授業をして下さったところ。

皆が本当に優しく、寮でのご飯では、いろいろな国のご飯を出してくれたところです。

毎日イベントがありクラスの留学生だけでなく、同じ寮に住んでいる人たちと交流する機会がたくさんあったことである。そして、生活や寮に関する事で質問があるときには気軽に寮のドンやプログラムのアシスタントに質問できる環境であった。

他のプログラムの留学生と交流できるイベントが多数あったこと。食事が充実している。

毎日アクティビティがあったところです。このおかげで、とても充実した日々を過ごすことが出来ました。留学生と話す機会は増え、ナイアガラの滝やラフティングなど、普段ならば体験することが出来ない経験をすることが出来ました。